

JR尼崎事故一〇周年弾劾！全国総決起集会報告

# 国鉄闘争を闘って労働運動を甦らせよう！

昌一金属支部 M

四月二五日、福崎工場

食堂においてメーデー横断幕の色塗りの作業の後、支部から車二台で「四・二五尼崎事故十周年弾劾！全国総決起集会」に参加しました。

集会場所の尼崎駅北口広場に車で乗り付けると、そこは陽射しを遮る場所も無くして集会中は常に暑さに苛まれることになりました。

まず、呼びかけ団体挨拶が行なわれ、我が港合同からは中村委員長に代わりK執行委員が挨拶を

務められ「毎年この場所に

に立たせてもらっているが、労働運動に関わる一人として、労働組合がしっかり闘わなければ、職場の安全も、労働者の命も守ることができない、ということを確認します。

そして労働組合の闘いこそが地域住民や、この社会の安全や未来を守っていくのだと確信を新たにしています。

二〇〇五年の尼崎事故は、民営化と非正規化、労働組合つぶしの攻撃が何をもたらすかを衝撃的

に突き出しました。

JR、電力・原発、ライフラインそのものにおいて、何より重視されるべき安全が無視されてきた。しかも事故があっても、何か起きてても、誰も責任をとらない、すべてが労働者の責任に押し付けられ、尼崎事故では、今も運転士を犠牲者の数に数えようとはしない。

原発再稼働も同じこと。福島第一原発であればこの大事故を起こしておきながら、誰も責任をとらず、何も解決していない

に突き出しました。



のに、安倍政権は、ただただ再稼働を追求している。絶対に許す事はできない。

今、大阪では都構想に向けた住民投票がある。都構想は大阪市を五つの区に分割して権限を持たせていくとか、いろいろ言っていますが、大阪市の労働組合をバラバラにするということでは

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

鉄分割・民営化攻撃そのものであり、僕らの言わせれば『会社丸ごとの組合つぶし』の攻撃です。

だから都構想とは団結権であり、労働組合をめぐる攻防だとハッキリさせて闘うことです。労働組合が今も現場で闘っていることに追い詰められた攻撃です。

だから労働組合が毅然と団結を固めて闘い抜けば勝てるのです。動労千葉や動労西日本の仲間たちが闘い抜いていることが新たな結集軸となり、国鉄闘争全国運動は団結を拡大し、全



動労千葉の中村仁執行

国で燃え広がっています。

関西でも、昨年十月十七日の集会をもって正式に全国運動関西として出発しました。各職場・地域での労働組合の闘いを一つにまとめ上げて、大きな運動のうねりをつくりあげていきましょう」と参加者を見事にアシテートされていました。

委員は、JR東日本の外注会社であるCTS（千葉鉄道サービス）で、新たに八名の仲間が加入したことを報告。「JR大再編」とは、JRを全面的に外注化・非正規職化していく攻撃であり、行き着く先は安全の崩壊で第二第三の尼崎事故であると訴えられました。

また、国鉄神奈川動力

車労働組合の中村幸夫執行委員長は、書面にて「本日の尼崎闘争こそ、国鉄闘争を軸に日本におけるゼネラルストライキを準備する決定的な闘いです。そもそもJ

R西日本と井手は『経営は安全で責任はない』と公言し、一〇七名大虐殺の事故責任を何一つ取ろうとしていません。戦争と大恐慌そのものの第二の分割・民営化攻撃と対決してJR体制を打倒する勝利の隊列を全国で作り出していきましょう」と訴えられました。他にも動労西日本、動労水戸、国鉄闘争団、関西生コン支部、八尾北医療センター、労組、大阪市職の青年、全学連、と参加者数は約三〇〇人にもものぼったようです。

集会の後にデモに出発し、事故現場を通り無事デモを貫徹しました。

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！